

社会科授業案

日時 平成29年10月27日(金) 公開授業 I
生徒 2年A組 男子17名 女子16名
授業者 細野 歩
授業場 中学校2年A組教室

1 単元名 第6章 近代の日本と世界 1 明治維新と立憲国家への歩み

2 単元の目標

富国強兵・殖産興業などの明治初期の諸変革に対する関心を高め、諸変革の特色について理解させた上で、資料から欧米諸国の近代化や東アジア情勢の植民地化についての情報を適切に選択・活用して、明治時代の諸変革が起こった背景について、多面的・多角的に考察し適切に表現することができるようにする。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の大項目「(5) 近代の日本と世界」中の「イ 開国とその影響・富国強兵・殖産興業」にあたる。ここでは、開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させることを主なねらいとしている。

小学校の学習指導要領では、「明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。」を児童が理解できるように単元を構成することが示されている。

中学校社会科歴史的分野においては、日本の歴史の大きな流れを理解することに主眼が置かれている。同時に、日本の歴史において、諸外国との接触・交流が日本の社会を大きく変えていく契機となった場面があり、その場面の背景となった諸外国を踏まえて生徒に理解させることで、世界との関わりの中で日本の歴史を見ていく視点を養うことが求められてもいる。

明治維新は、日本史上最大の歴史変革であり、日本の社会が前近代から近代へ転換する画期であるとともに、それは、政治的変革であるだけでなく、社会的・経済的・文化的変革でもあった。19世紀には多くのアジア・アフリカ諸国・諸地域は欧米列強の植民地になっていった。このような激動の世界情勢の中で、日本は明治維新という大変革をおこなって、古い幕藩体制を解体し、近代国家へと進んでいった。それは、薩長両藩の下級武士を中心とする維新官僚や、豪農商、民衆といった政府や人々の努力によるところが大きい。この時代に四民平等のもと、よりよい国づくりを目指し多くの国民が社会に参画したことは、現代に生きる私たちも学ぶべき事が多い。しかし、中学生にとって、明治維新や富国強兵などの単語は知ってはいるものの、当時の人々が何を考え、どのような国づくりを目指してきたのかについて考える機会はほとんどない。これから社会を担っていく中学生にとって、日本が大きく変わった明治維新のあらましを様々な視点から学習することは、意義深いことだと考える。

以上のことを踏まえ、本単元では、時期や時間の推移という視点はもとより、諸外国といった空間的な広がりという視点等で「見方・考え方」を働かせるように学習過程を構成していく。そして、課題追究の場面において、これまでの学習を踏まえ、新たな視点から事象を捉えることで、自己の考えを構成する根拠がより明確になっていく姿が見られるように単元を構成していく。

(2) 目指す生徒像

授業学級の

(3) 指導観

本單元における「見方・考え方」と「対話的な学び」の関係性

本單元における「見方・考え方」として、「明治時代に起きた諸変革」を通して、よりよい社会に向けて、課題追究のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付ける力の素地を養うために、以下のような手立てを講じていく。

資料提示の工夫から児童・生徒の新たな視点を引き出す教師の働きかけ～I

「対話的な学び」を促し、深い学びにつなげていくためには、児童・生徒のこれまでの見方・考え方を踏まえ「新たな視点を見つけることができた」という気づきの場面が必要となる。そこで今年度は、「限定」、「類比」、「批判」の3点を意識した資料の提示を行った上で児童・生徒が新たな視点を持てるような教師の働きかけを行っていきたい。児童・生徒が資料との対話をきっかけにして事象間相互の因果関係やつながりに気づき、見方・考え方が高まり、自己の考えがより精査されることで、他者との対話はより効果的に機能すると考える。

「類比」を意識した場面での資料提示の工夫

類似したものを提示したり、取り上げたりすることで両者の差異を比較分析させ、それぞれの本質をより一層明確に把握させていく。

富国強兵、欧米諸国に負けない国づくりという概念は小学校における授業で生徒は既に習得しているであろう。それを踏まえて中学校段階では、「どうして日本は大国ではないドイツを参考にしたのだろうか」を生徒に問い、以下の資料を提示する。以下の資料を提示することで、東アジア、ヨーロッパという空間的な広がりの中から、これまでの時間的な枠組みの中で生徒が日本とドイツの共通点を見いだせることができるようにする。



明治時代の国境線



明治時代の国境線（ヨーロッパ）

教師の働きかけの具体例

- ・これまでの時代と比べて、東アジアの情勢はどのように変わったのだろうか。
- ・どうして日本は大国ではないドイツを参考にしたのだろうか。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用 of 技能	社会的事象についての 知識・理解
ア 欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出、明治維新による近代国家に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	ア 富国強兵・殖産興業政策について、様々な視点から課題をとらえ、多面的・多角的に考察し、その過程や根拠を適切に表現している。 イ 我が国の大きな変革に対して、既習事項を踏まえ、空間的な関わりや時間軸をもとに社会的事象の比較・関連付けを行っている。	ア 富国強兵・殖産興業政策に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して内容を読み取っている。	ア 日本国憲法の基本的原則である平和主義の種類や内容について、その知識を身につけている。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
江戸時代と明治時代の様々な違いが分かる資料を提示して、生徒が単元を貫く課題に対して学習意識を持つようにする。A-①	<p>1 時間目</p> <p>戊辰戦争の流れを踏まえ、五箇条の御誓文を提示し、会議を開いて世論に基づいた政治を目指したことに気付き、幕藩体制とは異なる時代が始まったことを説明する。</p> <p>関ア・知ア・技ア</p>	<p>限定を意識した資料を提示することで、江戸から明治が変わったことをより鮮明にし、生徒の思考に揺さぶりをかけ、対話的な学びにつなげる。</p>
<p>1. 「どうして新政府はこれまでの時代を変える必要があったのだろうか。」という学習課題から、戊辰戦争が始まった経緯と降伏までの流れや、五箇条の御誓文に込められた願いについて自己の考えを表現する。A-①</p>	<p>2 時間目</p> <p>版籍奉還や廃藩置県によって幕藩体制が終わったことに気付き、四民平等を目指し、欧米に負けない国づくりを目指したことを表現する。</p> <p>知ア・思イ・技ア</p>	<p>批判を意識した資料提示の工夫をすることで、新政府の意図と国民の思いの対立構造を際立たせ、生徒の思考に揺さぶりをかけ、対話的な学びにつなげる。</p>
<p>2. 「新政府はそれまでの社会の仕組みをどのように変え何を指したのか」という学習課題から、藩閥政治からの脱却や廃藩置県、版籍奉還を行った目的について表現する。A-①</p>	<p>3 時間目</p> <p>開国以降、外国の生活様式が日本でも積極的に取り入れられたことに気付き、教育や財政面においても変革がなされた流れを表現する。</p> <p>関ア・思ア</p>	
<p>3. 「近代化について、日本はどの国を参考にし、人々の生活はどのように変化していったのだろうか。」という学習課題から、明治時代における生活と変容の背景、流れについて交流する。A-①</p>	<p>4 時間目【本時】</p> <p>岩倉使節団が欧米の大国や小国の様子から学んだことを踏まえ、日本が富国強兵をおこなった背景について、時間軸や空間軸に着目しながら自分の言葉で他者に表現する。</p> <p>関ア・思イ・技ア</p>	<p>類比を意識した資料を提示することで、日本とドイツの共通点に着目させ、対話的な学びにつなげる。</p>
<p>4. 「岩倉使節団が、富国強兵において大国ではなくドイツを参考にしたのはどうしてだろうか。」という学習課題から、欧米諸国の脅威、富国強兵を選んだ目的について交流する。A-①</p>	<p>5 時間目</p> <p>帰国した岩倉使節団と、日本に残っていた西郷隆盛、板垣退助らの考え方の違いに着目し、外交に対する考え方について表現する。</p> <p>知ア・思ア・技ア</p>	<p>批判を意識した資料を提示することで、生徒の思考の枠組みを整理し、対話的な学びにつなげる。</p>
<p>5. 「岩倉使節団を経て、日本の舵取りはどの道を選んだのか。」という学習課題から、朝鮮・中国との外交や領土の画定と沖縄県の扱いをどのように画定したのか、地図に書き込む。A-①</p>	<p>6・7 時間目</p> <p>政府を下野した板垣退助が民衆の支持を経て国会の開設を求めたことを他者に説明する。</p> <p>国会の開設にむけて内閣が整備されたことや、アジアで初めて立憲国家になったことを踏まえ、当時の人々がどのような国づくりを目指したのかを表現する。</p> <p>関ア・知ア・思アイ</p>	
<p>6. 「どうして人々は国会の設立を求めたのだろうか。」という学習課題から、自由民権運動の始まりや国会開設への動きについて表現する。A-①</p>		
<p>7. 「アジアで初めて作られた憲法は、どの国をモデルにし、どのような国づくりへの願いが込められているのだろうか」という学習課題から、大日本帝国憲法の発布の背景にある政府や天皇の思いについて交流する。A-①</p>		


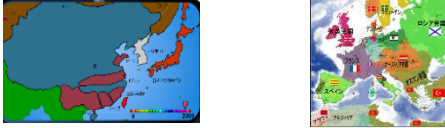
日本の大変革！日本は欧米諸国のような姿や考え方に感銘を受け、近代化を進めたのだろうか？ A-①

6 本時について (4/7 時間目)

(1) 本時の目標

岩倉使節団についての学習から、日本がドイツを参考に富国強兵をおこなった理由について、日本とドイツを様々な視点から比較した上で、課題に対する根拠を自分の言葉で他者に表現することができる。

(2) 本時の展開 (○発問, △補助発問, □指示・説明)

学習活動 (下位目標)	主な働きかけ 手立て	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 岩倉使節団がドイツを訪問し、どんな印象を受けたのかを予想することができる。</p>  <p>明治初期のドイツ (左)、日本 (中)、アメリカ (右) の町並み</p>	<p>○ドイツを目の当たりにした岩倉使節団はどのような事を考えたのだろうか。</p> <p>ア 小国の様子を感銘を受け、ドイツを憧れた。 イ 小国であることの現実を目の当たりにし、富国強兵を急がねばならないと決意を新たにした。 ウ 小国のドイツから学ぶことは正直あまりないと思った。 正解はア</p>	<p>【発言】</p>
<p>岩倉使節団が、富国強兵において、大国ではなくドイツを参考にしたのはどうしてだろうか？ A</p>		
<p>2 岩倉使節団が真っ先にアメリカに向かった目的が不平等条約の改正であることや、イギリスで産業革命の影響などを学ぶためであると発表することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が急激に近代化を進めていることをアメリカの人に知って欲しかったため。 ・日本が力を強めたため、不平等条約を改正したほうがよいとアメリカに思わせるため。 ・幕末に結んだ不平等条約の改正。 ・不平等条約を最初に結んだ国なので、治外法権を撤廃し、関税自主権を回復しようとした。 	<p>□以下は伊藤博文がアメリカで演説した内容であるが、空欄に言葉を入れなさい。</p> <p>日本は一個の(ア)も放たず、一滴の(イ)も流さず、封建制度を打破した。 正解はア：弾丸 イ：血</p> <p>○伊藤博文は日本の明治維新の素晴らしさを強調したが、それは、どんなことを目的にしたのだろうか。</p> <p>△岩倉使節団はなぜ真っ先にアメリカやイギリスを訪問したのだろうか。</p> <p>○アメリカ、イギリスを訪問して本来の目的は達成されたのだろうか。</p>	<p>【発言・WS】</p> <p>資料1 ビスマルクの演説 世界各国は、みなお互いに親しく交わっているようだけれど、実際は強い国が弱い国を支配している。私たちの国が軍隊を備えているのは、そうしたことから守ろうとするためだ。私たちの国は小国だからその苦勞はよく分かるので、今後親しくしていきたい。</p> <p>資料2 小国への強い関心 小国は、土地は痩せて湿地だが、人民は努力を重ね、大国の間であって自主の権利を貫いている。そして、総生産力は大国をはるかにしのぐのみならず、ヨーロッパ全体や世界貿易にも影響を及ぼしている。それほど力を発揮することが出来るのは、人民が良く励み、よく協力一致して力を尽くしているからであって、これらの国が我々に与える感触は、米・英・仏の三大国以上のものがある。 田中彰「明治維新」より</p>
<p>3 岩倉使節団がドイツから、日本の将来の進路はここにあるという判断をした心情を理解することができる。</p> <p>4 日本がドイツを見本に富国強兵を進めようとした背景や理由について、自分なりの考えをまとめ、根拠を他者に伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本がヨーロッパ諸国の植民地になる可能性があったため。 ・アジアの大国である清がヨーロッパの植民地になったため。 ・日本もドイツも面積がそんなに大きくない。 ・日本もドイツも、近くに強力な国があり、それらの侵略から守る必要があった。 ・大国の場合、戦力や規模が日本とは違い過ぎるため、手本にはならなかった。 	<p>○日本はドイツのどこに共感したのだろうか。</p> <p>○どうして日本は欧米に負けない国づくり(富国強兵)をする必要があったのだろうか。</p>  <p>資料3 明治時代の東アジアの国境線(左)と明治時代のヨーロッパの国境線(右)</p> <p>○どうして日本は大国ではないドイツを参考にしたのだろうか。 手立てI</p> <p>△日本とドイツの共通点は無いだろうか。</p> <p>□あなたの考えをワークシートに記入し、班で交流してみよう。</p>	<p>【発言・WS】</p>
<p>5 これまでの学習を振り返り、学習課題に対する自分なりの答えを記述することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的似た立場にあった日本とドイツは、近くの大国の脅威から守るために富国強兵をおこなった。 	<p>○学習課題に対する自分なりの答えをワークシートに記入してみよう。 B</p>	

